

リハビリテーションのまとめ役として

連携室 最後になりますが、地域の皆さんへメッセージをお願いします。

梶本 リハビリ専従医師というのは先程お話したように患者様に一番身近な存在であり、リハビリ相談や個々の面談など顔の見える環境、また他職種連携のまとめ役であるべきものと考えております。その中で患者様に安心・安全なリハビリ医療を提供できればと考えております。

倉橋 今までチーム医療と言われてやってきましたが、主治医は当然おりますが、やはり最後のリハビリのまとめ役というのが不在でした。今回梶本先生に来て頂いてよりまとまりができ、良いリハビリが提供できると思います。また、水無瀬病院にはS T (言語聴覚士) がいますので、「食べる事をあきらめずに、食べられるんだ」という所をめざして頑張っていきたいですね。

連携室 そうですね、やはり患者様やご家族様にとっての安心、リハビリの先生がずっとついて経過をみてもらえているという安心感もこれからは提供でき、そしてこの島本町の唯一の病院としての皆さまのお力に少しでもなればと思います。本日はありがとうございました。



★ 医療法人 清仁会 水無瀬病院

- SAKURA -
— 広報誌 —

さくら

島本町医学講座

10月1日(月) 島本町ふれあいセンター 第4学習室にて医学講座が開催されました。

当院、脳神経内科「藤原 康弘」医師による「脳神経の老化について～アルツハイマー型認知症やパーキンソン病の予防～」と題し、講演をさせていただきました。



Contents

新任医師紹介

当院からのお知らせ

ーリハビリ対談

ー島本町医学講座

編集後記

診療担当医表

編集後記

今年は災害の年ですね。6月の大阪北部地震に続き、9月にも台風21号がやってきました。25年ぶりの超大台風と言われるだけあって、屋内から様子を見てましたが、物が飛んで来て窓が割れないか心配で怖い思いをしました。自然の力には敵わないものなのだと改めて痛感いたしました。

【広報委員会 小島 紗代】

発行元

医療法人 清仁会 水無瀬病院 広報委員会
TEL:075(962)5151 <http://minasehp.jp/>



私たちは、「安心」の二文字をモットーに、
地域社会の発展と皆様の健康を守るために
よりよい医療・福祉サービスを提供します。

医師入職のご挨拶



整形外科
松枝 洋

整形外科の松枝です。

平成30年6月より水無瀬病院に常勤医として勤務することになり、はや4か月が経過しました。もともと高槻生まれ、いつか北摂に戻ってくるチャンスがあれば、と考えておりましたところ、ご縁があつて水無瀬病院での勤務をスタートすることができました。

島本町では思い起こせば保育園時代の発表会が島本町のホールであったことや、学生時代では関西電力のグラウンドで野球の練習で汗を流したことなどをはじめ、いろいろ思い出が詰まった地ですので、懐かしさを感じながら充実した毎日を送ることができています。

整形外科は主に運動器の疾患を扱っています。外傷、スポーツ障害、慢性の肩・腰・膝痛などでお困りでしたらぜひご相談ください。

ちなみに、私は元高校野球監督です。選手、現場の指導者、保護者、そして医療との懸け橋として、現在もスポーツ現場で奮闘しています。スポーツにまつわるご相談があれば、いつでもお声をかけてください。



脳神経科
藤原 康弘

初めまして、平成30年9月より水無瀬病院脳神経内科で勤務している藤原康弘です。

脳神経内科という名称は、あまり馴染みがないかもしれませんが、脳、脊髄、末梢神経、筋肉などの疾患を診断し治療する内科です。なお、精神科（神経科）とは異なり心（精神）の病気は専門ではありません。

具体的には頭痛、しびれ、めまい、話にくさ、手足の麻痺、筋力低下、筋の萎縮、ふるえ、感覚低下、歩行障害、物忘れ、けいれん、意識障害などの症状が対象となります。また、代表的な疾患としては、認知症（アルツハイマー病やレビー小体型認知症など）、パーキンソン病や脊髄小脳変性症の神経難病、脳血管障害、片頭痛などがあります。

脳神経内科の疾患はCTやMRIなどの画像検査では異常が認められないことが少なくないため、もし、これらの症状でお困りの場合には、気兼ねなく相談にきてください。

丁寧かつ安心できる診療を心がけ、皆様の役に立つよう頑張っていきます。



外科
森山 裕熙

はじめまして、平成30年9月より、外科の常勤医としてお世話になっております。

これまでは、大学卒業後すぐにスタートした消化器外科として経験を積んで来ましたが、それと同時に外科医としては珍しいと言われるのですが、消化器内視鏡医としてもスタートし、内科を専門とする先生方には及ばすとも専門医を取得することができました。また、外科医は癌を切除して終わりではありません。悔しくも再発し終末期を迎える方々もおられます。そこで、途中の2年間ホスピスでも勉強させて頂きました。

今では大病院ともなると外科医は手術をして終わり、その後は他科でという流れになりつつありますが、私は内視鏡を主とした診断から始まって、人生最後の看取りまで関わることができればと、さらには、これらを微力ながら地域の方々に還元することができればと思っています。これからもよろしく願いいたします。

リハビリテーション 対 談



倉橋部長



梶本医師

9月より当院リハビリテーション科に専従医が「梶本 佐知子」医師が入職しました。

緑豊かな島本町唯一の病院にこられて

連携室 この9月から水無瀬病院にいられました率直な感想はいかがですか？

梶本 今まで高槻を中心にリハビリに関わってきました。今回、島本町は初めてですが、緑豊かで自然も多く、落ち着いた雰囲気ですね。たしかに高槻に比べると規模も小さいですが、その分、患者さんにより近い距離で関われると感じています。リハビリに対しての期待も大きいと思うので、のんびりもしていられないかなあ～（笑）というのが正直なところですよ。

可能な限り元の生活に

連携室 一般の方が思い描く、今の病院でのリハビリのイメージとはどんな感じなのでしょう？

梶本 リハビリとマッサージを一緒のものだと思っておられる方も多いと思いますが、実際のところリハビリとは、訓練や痛みの軽減のみではなく、可能な限り元の生活を取りもどすことを目指しています。決して私一人が関わるのではなく、各専門職（リハビリスタッフ、看護師、ソーシャルワーカー）と一緒にチーム医療の中でのリハビリをおこなっていけると思います。

患者さんにとってのベストな状況に

梶本 病院でのリハビリは他職種との連携・チーム医療です。各々（医師・看護・介護・ソーシャルワーカー等）思っている事ですが、各々がベストな状況を当然考えます、しかしその中で色々な問題（医療的・社会的背景など）でお互いの着地点が見いだせなかった時に、みんなで話し合い、ベストじゃないかもしれないけれど、考え方を寄り添い、ベターを目指す事によって、結果、患者様にとって結果ベストな状況になってご自宅へ帰って頂ける事かなあ～と思います。

倉橋 梶本先生の言われるように必ずしもベストというものを目指せない場合がありますが、患者さんにとって自宅へ帰れる喜びを味わってもらえるように一緒になってゴールへ向かいたいですね。

（次面へつづく）